



////////////////////////////////////

日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 72

Feb. 2019

今号のトピックス

3/9 開催の公開シンポジウムのご案内があります (12 ページ)

目 次

会長あいさつ	2
新評議員あいさつ	2
新役員等一覧	3
諸報告	
2019 年度第 18 回日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞)	
受賞者の決定	4
2019 年度第 13 回日本植物分類学会論文賞の決定	5
2018 年度第 1 回メール評議員会議事抄録	6
2019 年度第 1 回メール評議員会議事抄録	7
東アジア国際植物分類学シンポジウム	
"East Asian Plant Diversity and Conservation 2018" の報告	8
東アジア国際植物分類学シンポジウムに参加して	9
2018 年度日本植物分類学会講演会の報告	10
2018 年度日本植物分類学会講演会に参加して	11
お知らせ	
日本植物分類学会第 18 回大会	
公開シンポジウム「東京の植物の今を語る」のご案内	12
2019 年度総会のお知らせと審議事項	13
会員消息	19

会長あいさつ

会長 伊藤 元己 (東京大学大学院総合文化研究科)

皆様、新年明けましておめでとうございます。前期に続き学会長に選出されましたので、引き続きあと2年間会長を務めさせていただきます。

実は、再び会長に選出されたということは、8月になってニュースレター担当の堤さんからNo.70の校正が送られてきて、「選挙結果」の記事を読んで初めて知りました。7月18日に行われた会長・評議員選挙の開票後、しばらく経っても何も連絡がなかったので、次期会長は他の方になったのだと思い、少しはのんびりできると安心していただけです。新年度からの役員を構成するスタートが遅れましたので、執行部の編成はかなりバタバタして何人かの方にはご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

さて、2年前に会長を引き継いだ時は、すぐにやらなければならない問題が山積していました。この2年間で、会費の値上げ、植物地理・分類学会の合流とそれに伴う和文誌統合、英文誌『APG』へのImpact Factor付与など、担当役員と学会員の皆様の努力により、懸案の課題が解決しました。しかしまだ取り組まなければならない継続課題や新たに発生した問題も多くあります。

中でも植物分類学の普及活動については、この2年間に前会長の角野さんに委員長をお願いをしてアンケート調査などをとりまとめていただきました。新体制では、アンケート調査の結果を踏まえ、中堅層の会員に委員会活動を引き継いでいただき、各地域での植物分類学の普及を図っていくつもりです。また、昨年10月から実施された植物防疫の厳密化による標本の輸入問題は、当学会にとって大きな影響があります。この問題および、植物標本庫の諸問題については、前庶務の田中さんに標本問題対応委員会を組織、担当していただく予定となっています。これら以外にも対応すべき問題は多数ありますが、新たな執行役員の方々と少しでも良い方向を目指して努力をしていきますので、会員各位におかれましてはご協力をお願い致します。

新評議員あいさつ

評議員 藤井 伸二

2019～2020年度の2年間を、秋山弘之、池田博、志賀隆、副島顕子、土金勇樹、内貴章世、永益英敏、西田佐知子、藤井伸二、村上哲明、山田敏弘、綿野泰行の12名が評議員を務めます。よろしくお祈りします。

昨年度には、長年の努力が稔って英文誌にインパクトファクターが付与され、懸案であった財政状況改善のための会費値上げが行われました。また、植物分類・地理学会との合流を果たして和文誌の誌名を変更するなど、学会として大きな節目を迎えた年でもありました。年次大会の他に、野外研修会、講演会、東アジア国際植物分類学シンポジウムも順調に開催されました。こうした前期役員の方々と会員の皆様の努力による本学会のこれまでの事業をさらに発展させるべく、新評議員一同がんばりたいと思います。

本学会では、植物分類学の発展をめざして、英文誌・和文誌・ニュースレターの出版、HPの維持、年次大会・講演会・国際シンポジウム・研修会などの事業を行っていますが、そのほかにも各種の委員会が様々な関連事業を行っています。絶滅危惧植物の調査、ABSに関する対応、データベースの推進、標本問題の検討などは、これからますます重要になってくると考えられます。生物多様性条約の2010年愛知目標では2020年にむけての成果が求められており、関連課題についての本学会の取り組みや社会貢献も期待されています。会員の皆様のご協力をいただきながら事業を進めて参りますので、ご希望やお声を評議員や各種委員会の委員にお伝えください。2年間、どうぞ

よろしくお願いたします。

新役員等一覧 (任期：2019年1月1日～2020年12月31日)

庶務幹事 海老原 淳

今期の役員および各委員会委員長等が以下のように決まりましたので報告いたします。

会長：伊藤 元己

庶務幹事*：海老原 淳

会計幹事*：厚井 聡

図書幹事*：藤井 俊夫

ニュースレター担当幹事*：山本 薫

ホームページ担当幹事*：阪口 翔太

編集委員長：田村 実

英文誌編集担当委員：田村 実

和文誌編集長：山田 敏弘

日本分類学会連合担当委員：黒沢 高秀

自然史学会連合担当委員：朝川 毅守

講演会担当委員：布施 静香

野外研修会担当委員：西野 貴子

*会則第11条で定める幹事 (連続二期まで)

評議員：藤井 伸二, 秋山 弘之, 池田 博, 志賀 隆, 副島 顕子, 土金 勇樹, 内貴 章世, 永益 英敏,
西田 佐知子, 村上 哲明, 山田 敏弘, 綿野 泰行

監事：瀬戸口 浩彰, 渡邊 幹男 (2019年度の総会まで)

委員会：

編集委員会：田村 実 (編集委員長), 山田 敏弘 (和文誌編集長), 東 隆行, 池田 博, 海老原 淳,
大村 嘉人, 川窪 伸光, 黒沢 高秀, 高宮 正之, 高山 浩司, 坪田 博美, 内貴 章世,
仲田 崇志, 中田 政司, 永益 英敏, 西田 佐知子, 西田 治文, 藤井 伸二, 布施 静香,
牧 雅之, 村上 哲明, 米倉 浩司, 綿野 泰行, David E. Boufford (アメリカ),
Jae-Hong Pak (韓国), Rachun Pooma (タイ)

絶滅危惧植物専門第一委員会：藤井 伸二 (委員長), 東 隆行, 海老原 淳, 勝山 輝男, 加藤 英寿,
角野 康郎, 川窪 伸光, 黒沢 高秀, 志賀 隆, 芹沢 俊介, 高宮 正之,
藤田 卓, 矢原 徹一, 横田 昌嗣, 米倉 浩司

絶滅危惧植物専門第二委員会：樋口 正信 (委員長), 山口 富美夫, 古木 達郎, 有川 智己,
片桐 知之, 北山 太樹, 坂山 英俊, 菊地 則雄, 寺田 竜太,
神谷 充伸, 細矢 剛, 服部 力, 吹春 俊光, 糟谷 大河,
保坂 健太郎, 柏谷 博之, 宮脇 博巳, 竹下 俊治, 大村 嘉人

植物データベース専門委員会：大西 亘（委員長），伊藤 元己，海老原 淳，永益 英敏，藤井 伸二，
米倉 浩司

学会賞選考委員会：瀬戸口 浩彰（委員長）

ABS 問題対応委員会：村上 哲明（委員長），伊藤 元己，海老原 淳，永益英敏，坪田 博美，
藤井 伸二，邑田 仁

国際命名規約邦訳委員会：永益 英敏（委員長），邑田 仁（副委員長），海老原 淳，早坂 英介，
保坂 健太郎，池谷 祐幸，片桐 知之，黒沢 高秀，仲田 崇志，中井 秀樹，
根本 智行，大橋 広好，大橋 一昌，山田 敏弘，米倉 浩司

国際シンポジウム準備委員会：池田 博（委員長）

標本問題対応委員会：田中 伸幸（委員長），秋山 弘之，池田 博，田金 秀一郎，細矢 剛，永益 英敏，
遊川 知久

諸報告

2019 年度第 18 回日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）受賞者の決定

前学会賞選考委員会委員長 永益 英敏

学会賞選考委員会において、ご本人や推薦人から提出いただいた研究概要と業績リストなどの資料等をもとに協議いたしました。その結果、下記のように学会賞として 2 名、奨励賞として 2 名の方の受賞が決定しましたのでお知らせします。（それぞれ五十音順）

学会賞

海老原 淳（国立科学博物館植物研究部研究主幹）
「生物多様性情報に立脚したシダ植物の分類学」
杉野 孝雄（遠州自然研究会会長）
「静岡県における植物分布の多様性の研究」

奨励賞

井上 侑哉（服部植物研究所研究員）
「センボンゴケ科を中心としたコケ植物の多様性と系統関係の解明」
遠山 弘法（琉球大学熱帯生物圏研究センター特命助教）
「種内，種間，群集における多様性の創出・消失過程」

授賞理由は以下の通りです。

学会賞：

海老原氏は、シダ植物を主な研究対象として分類学的研究を進められています。日本国内のほぼ全てのシダ植物種の DNA バーコードを世界に先駆けて整備し、配偶体フロアの解析や、独立配偶体種が関与する雑種形成などを解明されました。また、シダ植物の分子系統に基づく PPGI 体系 (2016) の構築においても重要な役割を果たされました。国立科学博物館の自然史標本の電子

化と公開にも尽力し、日本の植物多様性の研究・保全に対する基礎情報の整備を推進されています。2016, 2017年には『日本産シダ植物標準図鑑』を出版されました。日本植物分類学会では、幹事、評議員等を歴任し、学会の運営にも大いに貢献されています。

杉野氏は、静岡県を中心として植物の分布に注目した研究に長く携わってこられました。『静岡県の植物図鑑』(1990)をはじめとして、数多くの著作・報文を發表されています。また、環境省レッドリスト調査では静岡県主任調査員、静岡県版レッドリストの作成にあたっては植物部会長を務められました。杉本順一氏、志村義雄氏の標本を含む「ふじのくに環境史ミュージアム」の植物標本コレクションの収集・保全と調査を20年以上にわたって続けられるなど、植物分類学の普及・発展に大きく貢献されました。

このように、お二人は植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献があったと認められましたので、その功績を称え、日本植物分類学会賞に選出いたしました。

奨励賞：

井上氏は、蘚類の多岐にわたる分類群において世界規模での系統・分類学的研究に取り組まれています。蘚類でも最も多い1500種からなり、南極を含むすべての大陸の様々な環境への適応を遂げているセンボンゴケ科についての研究では、分子系統学的手法を用いて多様な形態の進化を解明し、新しい分類体系の提案が行われました。新科(センボンウリゴケ科 Timmiellaceae)の提案を含む一連の研究成果は国際的にも高く評価されており、海外の研究者との共同研究も積極的に進められています。

遠山氏は、生物多様性がどのように生じ維持されているのかという観点から、分類学を基礎として種内、種間、群集レベルでの生態・進化・保全学的な研究を進められています。姉妹種イザンスミレとヒゴスミレを対象とした研究では、系統関係と集団遺伝構造の解析から最終氷期後のそれぞれの種の分布拡大パターンの違いを明らかにし、対照的な環境への適応により2種が分化したことを示しました。また東南アジアの森林や水系の植物群集についての研究では、伐採や水質汚染が種多様性・系統的多様性・系統的群集構造に与える影響を明らかにされました。

このように、お二人は優れた研究業績をあげた将来有望な若手研究者であり、その功績を高く評価し、日本植物分類学会奨励賞に選出いたしました。

2019年度第13回日本植物分類学会論文賞の決定

論文賞選考委員長 田村 実

2019年度第13回日本植物分類学会論文賞は、2018年に出版された英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』69巻および和文誌『植物地理・分類研究』66巻に掲載された論文のうち、編集委員および論文賞選考委員から推薦された論文4編を論文賞選考委員会において審査し、次の2論文に決定しました。

Hori, K., A. Ebihara & N. Murakami. 2018. Revised classification of the species within the *Dryopteris varia* complex (Dryopteridaceae) in Japan. Acta Phytotax. Geobot. 69(2): 77-108.

選考理由：イタチシダ類は倍数性と無配生殖が絡まった、分類学的に難解なグループとして扱われてきた。著者らは、染色体数を明らかにすることによって、この群の多様化の基となった二倍体有性生殖種を洗い出し、さらに分子系統解析によって複雑な網状進化のパズルを解くことに成功した。オオイタチシダはそのゲノム構成から α , β , γ の3群に便宜上分類されていたが、この論文で正式に学名が与えられた。タイプ標本を検討して分類を整理し、検索表も作成している。

本論文は著者らによる一連のイタチシダ類の分類学的研究の集大成である。種複合体の全構成種について線画と分布図が提示されている点も価値が高い。

Katsuki, T. 2018. A new species, *Cerasus kumanoensis* from the southern Kii Peninsula, Japan. Acta Phytotax. Geobot. 69(2): 119-126.

選考理由：知名度が高く、極めてよく調べられている本州産サクラ属において、形態およびフェノロジーの特徴を慎重に検討した結果、有性生殖を行う新種を認識し、その特徴と識別点を十分な説得力をもって記述しており、分布域も示している。身近な種の丁寧な観察の重要性を再認識させるものである。

2018年度第1回メール評議員会議事抄録

前庶務幹事 田中伸幸

2018年12月7日～12月28日に2018年度第1回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。この会議は2018年度の事業報告案と会計決算案を評議員の方々に審議していただくものです。加えて、今回は、会計幹事の交代に伴う学会の所在地の変更のため、会則の学会所在地の変更案をご審議いただきました。なお、12月末日が会計締切りであるため、この2018年第1回メール評議員会での決算額に概算部分があります。2018年3月6日の評議員会と3月8日の総会にて提案されます同議案には、その概算部分について最低限の修正が加えられている箇所がありますことをご了承ください。また、会則の第22条の学会所在地の変更は、第21条「この会則は、総会において出席者の3分の2以上の同意を得て変更できる。ただし、第22条の本会の所在地については評議員会の承認をもって変更できる。」に基づき、会計口座の住所変更手続きなどに必要なため、本メール評議員会の承認をもって、1月1日より変更いたしました。

開催日時：2018年12月7日（金）～12月28日（金）

開催方法：電子メール媒体を用いた会議

参加者：評議員全員

議長選出

慣例にしたがい伊藤元己会長を議長とすることに反対はなかった。

審議事項

第1号議案 2018年度事業報告案

第2号議案 2018年度決算案

第3号議案 会則の学会所在地変更案

審議結果

第1号議案および第2号議案において、修正の後、承認多数で可決された。委任状はなかった。

第1号議案 【賛成13票、反対0票、白票0票】

第2号議案 【賛成13票、反対0票、白票0票】

第3号議案 【賛成13票、反対0票、白票0票】

議事録署名人として村上哲明評議員，海老原淳評議員が選出された。

2019 年度第 1 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 海老原 淳

2018 年度事業報告案，決算報告案，2019 年度事業報告案，予算案を評議員の方々に審議していただくため，2019 年 1 月 13 日～2 月 1 日に 2019 年度第 1 回メール評議員会が開催されました。以下の通り，議事抄録を報告いたします。

開催日時：2019 年 1 月 13 日（日）～2 月 1 日（金）

開催方法：電子メール等の媒体を用いた会議

参加者：評議員全員

議長選出

慣例にしたがい伊藤元己会長を議長とすることに反対はなかった。

審議事項

第 1 号議案 2019 年度事業計画案

第 2 号議案 2019 年度予算案

審議結果

第 1 号議案は，提案通り承認され，修正はなかった。第 2 号議案については，1 回の修正を経た後，承認多数で可決された。また，委任状はなかった。

第 1 号議案 【賛成 10 票，反対 0 票，白票 3 票】

第 2 号議案 【賛成 10 票，反対 0 票，白票 3 票】

議事録署名人として西田佐知子氏と山田敏弘氏が選出された。

東アジア国際植物分類学シンポジウム "East Asian Plant Diversity and Conservation 2018" の報告

国際シンポジウム準備委員会委員長 池田 博

2018年10月30日より11月5日にかけて、国際植物分類学シンポジウム "East Asian Plant Diversity and Conservation 2018" が、中国浙江省・杭州で開催されました。10月30日は受付、10月31日・11月1日は杭州梅竺飯店 (Hangzhou Meizhu Hotel) で口頭発表およびポスター発表、11月2日から4日にかけては野外エクスカージョンが行われました。参加者は、総勢105名（日本：16名、中国：71名、韓国：14名、ドイツ：2名、ネパール：1名、パキスタン：1名）でした（図1）。

口頭発表は前回までは招待講演としていましたが、今回からすべて申し込み制となり、日本からも4題の講演がありました。口頭発表の内容は大きく3つのセッションに分けられ、セッション1: "Plant systematics and evolution diversity and phytogeography", セッション2: "Plant systematics and population genetics", セッション3: "Plant conservation and vegetation science" でした。どのセッションも熱心な質疑応答が行われ、興味・関心の高さが伺われました（図2, 3）。



図1 シンポジウム参加者

続けて11月2日から4日にかけて行われたエクスカージョンは、1) 杭州～千島湖 (Qiandaohu) ～銭江源 (Qianjiangyuan) ～杭州のコース、2) 杭州～靈江源森林公園 (Lingjiangyuan Forest Park) ～華頂森林公園 (Huading Forest Park) ～国清寺 (Guoqing Temple) ～杭州の2通りのコースから好きな方面を選んで参加する方式でした。

私は千島湖方面に参加しましたが、広大な人造湖に浮かぶ島（もともとは山の上部）の植生（マツや落葉性ナラ類を優占種とするやや乾性の植生で、日本の瀬戸内地方あたりの植生を彷彿とさせるもの）や、銭江源の自然が残された暖温帯性樹林（常緑のカシ類やシイ類、クスノキ科を優占種とする森）を楽しませてもらいました（図4）。

このシンポジウムは2008年から始まり、今回で8回目の開催となりました。一時は継続も危ぶまれましたが、前回の大会（日本・東京）では奮起して開催に力を入れ、今回も盛況のうちに終えることができました。次回は2020年韓国での開催予定です（済州島での開催が考えられています）。日本植物分類学会会員の皆様には積極的にご参加いただき、大いに盛り上げていただければと思います。

最後になりましたが、大会の準備・実施に際しては、浙江大学の傅承新 (Fu Cheng-Xin) 教授、杭州師範大学の金孝鋒 (Jin Xiao-Feng) 教授をはじめとする現地の方々に大変お世話になりました。ここにお礼申し上げます。



図2 口頭発表（倉田正親氏）



図3 口頭発表を聞く参加者



図4 エクスカージョン（銭江源）

東アジア国際植物分類学シンポジウムに参加して

東京大学大学院理学系研究科博士課程 青木 聡志

今回会場となった杭州市は中国の南東部、長江の河口付近に位置します。前回の東京大会と違い今回は海外での開催でしたので、海外特有の話題を中心に書きたいと思います。

シンポジウム前日は主催者側が最寄りの杭州空港から学会会場のホテルまで直通のバスを出してくれていました。さらに、海外からの参加者の宿泊場所と学会会場が一体となっていて、中国語の心配を一切せずに会場へ向かえるよう手配されていました。ですが私は早めに杭州市に入り、市内にある西湖と杭州植物園を見学することにしました。

西湖は世界文化遺産になっている湖で、周縁部でいくらか植物を見られました。杭州植物園には分類体系にそって植樹された区域や中国の盆栽を展示した区域などがあり、興味深かったです。会場までは予め紙に書いておいた中国語を見せてタクシーで向かいました。

今回のシンポジウムでは口頭発表も公募していたため、私を含めて多くの学生が口頭発表を行っていました。発表や質疑応答の時間も一人計 30 分と十分に取られていて、私も国内外の先生方から発表について様々な有意義なコメントをいただくことができました。全体の発表内容は分類から生態まで多岐にわたり、前回大会に比べてかなり裾野が広がっているように感じました。口頭発表が多かった分、ポスター発表は少なめでしたが、複数の韓国のグループが葉緑体のゲノム解析をしていたのが印象的でした。

海外での学会は当然、開催国からの出席者が多くなります。そのため、外国訛りの英語に慣れる、自分の英語で外国人に研究を伝える、といった経験を積む絶好の機会となります。また、海外の植物や文化、研究に触れる多くの機会を得ることができます。次回の韓国大会も都合が合えばぜひ参加したいと思っています。

東アジア国際植物分類学シンポジウムに参加して

東京大学大学院理学系研究科博士課程 倉田 正観

東アジアは植物種が多様であることから、種分化・生物地理学・生態学研究のホットスポットの一つと言えます。本シンポジウムは、東アジアに分布する植物の進化及び起源、植物相の変遷について、中国・韓国・日本の研究者及び学生が意見を交換することを目的に開催されました。合計 50 題程度の口頭・ポスター発表で構成され、最新の手法・解析法を用いたわくわくする研究が多く、非常に刺激的な時間を過ごすことが出来たとともに、自身も日々精進していかねばならないと改めて気付かせてもらえる機会となりました。私自身、初めての国際シンポジウムへの参加ということで、非常に緊張した部分もありましたが、無事これまでの研究成果を発表することが出来ました。発表後、研究発展のためのコメントをいただくことが出来たことから、改めて「参加してよかった」と思いました。

シンポジウム以外のことに関しての感想としては、とにかく中国の食事は非常においしいということです。朝昼晩、全ての食事が美味で、思わず食べ過ぎてしまいました。次回は、2020 年に韓国で開催されるということで、もし機会があれば参加したいと考えております。最後に、本シンポジウムに参加させていただく機会を与えてくださった方々及び本シンポジウムを運営していただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げます。

2018 年度日本植物分類学会講演会の報告

講演会担当委員 布施 静香

18 回目の日本植物分類学会講演会が 2018 年 12 月 15 日に大阪学院大学で開催されました。今回は 6 名の先生方に下記の順でご講演いただき、75 名（うち学会員は 43 名）の参加がありました。

伊東 拓朗（京都大学 大学院農学研究科）：

マンネングサ属の特異な生き様に着目した植物進化研究

羽生田 岳昭（神戸大学 内海域環境教育研究センター）：

分子系統地理学的なアプローチで探る海藻類の移入

高山 浩司（京都大学 大学院理学研究科）：

小笠原諸島南硫黄島の植物相とシマクモキリソウの再発見

道盛 正樹（しだとこけ談話会）：しだとこけ談話会を礎にして

山田 敏弘（大阪市立大学 理学部附属植物園）：

球果によるマツ属の分類と日本のマツ亜属の進化史

塚腰 実（大阪市立自然史博物館）：

岐阜県可児市から見つかった新第三紀中新世のショウガ目果実化石



懇親会（演者と参加者）

伊東先生は、現在のご研究に至った経緯を含め、マンネングサ属の系統や形態進化について美しい植物写真も使ってお話しくださいました。羽生田先生は、海藻類の移入の現状・起源・経路について、丁寧にご紹介くださいました。高山先生は、ダイナミックな動画も交えて南硫黄島の自然をご紹介くださいました。道盛先生は、しだとこけ談話会がどのように発足し、発展してきたのかを日本の植物分類学を支えてこられた先生方の写真も交えてご紹介くださいました。山田先生は、化石に基づいた日本産マツ属の系統推定についてお話しくださいました。塚腰先生は、岐阜県で発見された非常に良い状態の果実化石に関するご研究成果をお話しくださいました。

ご多忙中にも関わらず快くご講演を引き受けくださった演者の皆様、遠方より足をお運びくださった参加者の皆様、そして会場の手配をしてくださった大阪学院大学名誉教授の林一彦先生に深く感謝いたします。



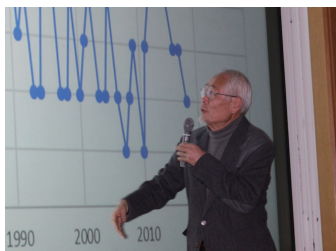
伊東 拓朗 氏



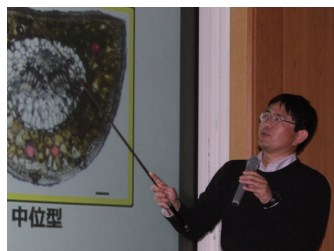
羽生田 岳昭 氏



高山 浩司 氏



道盛 正樹 氏



山田 敏弘 氏



塚腰 実 氏

2018 年度日本植物分類学会講演会に参加して

李 忠建・新宅 和憲（京都大学大学院理学研究科植物学教室）・西村 明洋（京都大学理学部）

日本植物分類学会に初参加いたしました。分野・分類群が多岐にわたる内容で勉強になりました。

伊東先生の講演はマンネングサ属の進化・系統についてでした。分子系統や生理、形態を解析することで、起源の異なる系統が台湾の様々な環境に平行して適応放散したことを示されました。植物にはこれまであまり知られていない発見で感嘆いたしました。また、ハママンネングサが明瞭に分化した複数の系統からなることを明らかにされ、分類への貢献も大きいと感じました。

羽生田先生は海藻類の移入について講演されました。ハプロタイプ解析等遺伝学的手法より、移入種として日本から海外へ渡った海藻類の移入経路を推測した例を紹介されました。また、海藻類が津波等で流された人工漂着物を介して移入する可能性も指摘され、普段陸上植物を勉強している身としては驚くことが多くありました。ほか、様々な講演を拝聴し貴重な話も聞くことができました。ありがとうございました。（西村 明洋）

高山先生は小笠原諸島をテーマに、2017 年に行われた南硫黄島の調査について映像と共にお話されました。79 年ぶりに発見されたシマクモキリソウ *Liparis hostifolia* は形態的・系統的な独自性が認められ、父島では既に絶滅したと思われていた植物が南硫黄島で生き残っていたことがわかり、興味深く思われました。一方、採取されたキヌラン属植物は、絶滅種ムニンキヌラン *Zeuxine boninensis* と異なる花色であったものの、遺伝的にはムニンキヌランだけでなくイシガキキヌランとも区別できないことなどから、ムニンキヌランは小笠原固有種ではないと結論づけられていました。今後も、様々な種で同様の検証が必要になると予感されました。

道盛先生はしだところけ談話会のこれまでにについて資料と共にお話されました。1950 年からこのような会があり、1968～1983 年間には年平均 5 回も会合があったというのが 1 つの驚きでした。田川先生や岩槻先生といった方々の人柄がわかるかのようでした。私などは植物に関わりはじめてたった数年ですので、昔に活躍された先生方のお話は整理しきれない面もあったのですが、多くの諸先輩方は懐かしく思われたのではないかと存じます。シダ・サロンやコケ・サロンといった小規模な活動の活性化に、日本の分類学を支える力を感じました。（李 忠建）

今回が二度目の参加となりました。去年に引き続き非常に興味深い濃い内容であり、勉強になるとともに楽しく聞かせて頂きました。

山田先生はマツ属について球果における詳細な解剖学的研究を行われ、球果によるマツの分類、そして日本産マツ亜属の起源についてお話をされました。松ぼっくりで分類したい、考え方はシンプルでありながら、詳細な形態観察、そして差が見られないとわかったところで切片の観察、その執念と熱意を感じられずにはられませんでした。最後には樹脂道に着目した分類へと行き着き、更にはそれを応用し球果化石へつなげていく。その流れを鮮やかと感じざるを得ませんでした。

塚腰先生は「岐阜県可児市から見つかった新第三紀中新世のショウガ目果実化石」という題名ではありましたが、岐阜県の化石のみならず、ドイツなど海外における化石産出状況や新第三紀中新世とはどういった時期かといった話もあり、大変勉強になりました。現在熱帯を中心に分布するショウガ目ですが、化石では同一種がヨーロッパと東アジアで発見される、そういった現生植物とは違った楽しみを感じることができました。（新宅 和憲）

お知らせ

日本植物分類学会第 18 回大会 公開シンポジウム 「東京の植物の今を語る」のご案内

第 18 回大会実行委員長 村上 哲明
事務局長 加藤 英寿



日本植物分類学会第 18 回大会 ロゴ

第 18 回大会（八王子）の最終日に、表記のような公開シンポジウムを開催いたします。奮ってご参加ください。また、非会員の方も事前申し込みなしで、無料でご参加いただけますので、関係の方々にもご周知ください。

【日時】2019 年 3 月 9 日（土）14 時～16 時 40 分

【場所】首都大学東京 南大沢キャンパス 1 号館 230 教室（東京都八王子市南大沢 1-1）

【内容】

東京都は世界有数の大都市を有する一方で、実は国内で最も多様な自然環境が存在し、そして最も広い海をもつ都道府県でもあります。都西部の奥多摩の山地にはブナやミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林が広がり、都最高峰の雲取山山頂部には亜高山帯針葉樹林まで見られ、奥多摩に点在する石灰岩地には特有の植物群落が見られます。多摩丘陵や武蔵野台地には、シイ・カシ類を主体とした暖温帯の常緑広葉樹林や、コナラ・クヌギを主体とした里山植生が残されています。数々の火山島からなる伊豆諸島では、遷移段階の異なる多様な植生を見ることができます。さらに南の亜熱帯に位置する小笠原諸島では、ここでしか見ることのできない固有植物が多数生育しています。

今回のシンポジウムでは、都内各所で長年にわたって野生植物を見つめ続けてこられた方々にご講演いただくとともに、希少種の保全や『東京都植物誌』の編纂に向けた地域連携の取り組みなどについても紹介していただく予定です。

1. 内野 秀重（八王子市長池公園）：
多摩丘陵で発見されたタマノホシザクラとハチオウジアザミは東京の固有植物か？
2. 石橋 正行（七島花の会）：伊豆諸島～比べて染み入る花の魅力～
3. 岡 武利（日本シダの会）：東京都を代表するシダは何か
4. 照井 進介（神代植物公園植物多様性センター）：
東京都内に生息する絶滅危惧植物の保全～神代植物公園植物多様性センターの取組～
5. 加藤 英寿（首都大学東京・牧野標本館）：
小笠原植物調査漂流記 & 東京都植物誌の編纂に向けて

【お問い合わせ】日本植物分類学会第 18 回大会（八王子）実行委員会
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京 牧野標本館内
電話：042-677-2440 電子メール：18jsps@tmu.ac.jp

（お問い合わせの場合には、できるだけ電子メールをお使いください。メールのタイトルは、「大会問合せ」として下さい。）

2019 年度総会のお知らせと審議事項

庶務幹事 海老原 淳
前庶務幹事 田中 伸幸

3月8日に開催される総会において、以下の議案が審議されます。会員各位の参加をお願いします。

1. 2018 年度事業報告案 (13 ページ参照)
2. 2018 年度決算報告案 (16 ページ参照)
3. 2019 年度事業計画案 (15 ページ参照)
4. 2019 年度予算案 (18 ページ参照)

1. 2018 年度事業報告案

(1) 集会等の開催

・学術集会, 講演会, 研修会

年次学術集会 (日本植物分類学会第 17 回大会: 3 月 7 ~ 10 日 金沢市) を開催した。

国際植物分類学シンポジウム "East Asian Plant Diversity and Conservation 2018" を開催した (2018 年 10 月 30 日 ~ 11 月 4 日: 中国・杭州市)。

2018 年度講演会を開催した (2018 年 12 月 15 日 (土): 大阪学院大学)。

2018 年度野外研修会を開催した (2018 年 9 月 8 ~ 10 日: 山形県月山方面)。

・総会, 評議員会

評議員会を 1 回 (3 月 7 日 金沢市) 開催した (ニュースレター No. 68 で報告)。

年次総会を年次学術集会に合わせて開催した (3 月 9 日 金沢市)。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 69 巻 1 ~ 3 号 (計 3 冊) を発行した。

和文誌『植物地理・分類研究 (The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』第 66 巻 1 ~ 2 号 (計 2 冊) を発行した。

・ニュースレター

『日本植物分類学会ニュースレター』68 ~ 71 号 (計 4 冊) を発行した。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し、目的に沿って活動を行った。

・絶滅危惧植物専門第一委員会 (藤井伸二委員長)

各都道府県の主任調査員・調査員の協力の下に、環境省の第 5 次絶滅危惧植物の全国調査を前年度から継続して実施した。

・絶滅危惧植物専門第二委員会 (樋口正信委員長)

コケ類, 藻類, 菌類, 地衣類の各グループの委員及び調査協力者により、環境省の第 5 次絶滅危惧植物の全国調査 (絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価に係る現地調査) を実施した。来年度は補足調査を実施する予定である。

・植物データベース専門委員会 (大西亘委員長)

日本産植物種情報データベース作成に向けて活動を開始した。日本で出版された原記載の収集に向け、関連雑誌の電子化の調査を行っている。

- ・学会賞選考委員会（ニュースレター No. 68 で報告）（永益英敏委員長）
- ・論文賞選考委員会（ニュースレター No. 68 で報告）（田村実委員長）
- ・大会発表賞選考委員会（ニュースレター No. 69 で報告）（海老原淳委員長）
- ・ABS 問題対応委員会（村上哲明委員長）

今年度は委員会全体としての活動は特に行わなかったが、委員長の村上が国立遺伝学研究所を通じて AMED から配分された ABS 支援のための予算なども用いて本学会会員の ABS 対応を支援した。

- ・国際シンポジウム準備委員会（池田博委員長）

国際植物分類学シンポジウム "East Asian Plant Diversity and Conservation 2018" を中国杭州市で開催した。口頭発表・ポスター発表は杭州梅竺飯店で行われ、日本人 17 名を含む 108 名の参加を得た。その後、2 ルートのエクスカージョンが行われた。次回（2020 年）は韓国・済州島で開催される予定である。

- ・植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会（角野康郎委員長）

「地域植物研究会等の現状に関するアンケート」を実施した。

- ・国際命名規約邦訳委員会（永益英敏委員長）

『Shenzhen Code 深圳規約』正本（英文）は 2018 年 6 月に出版された。出版に合わせて日本植物分類学会あての日本語版への翻訳許可書と正本の Word ファイルが届けられ、翻訳作業を開始した。

(4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞（学会賞・奨励賞）の授与を行った（ニュースレター No. 68 で報告）。
- ・日本植物分類学会論文賞の授与を行った（ニュースレター No. 68 で報告）。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行った（ニュースレター No. 69 で報告）。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行った：日本学術会議、自然史学会連合、日本分類学会連合など。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT)、および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携して国際植物分類学シンポジウムを実施した。

(6) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行った。
- ・当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開した。
- ・植物分類学関連情報（学術集会、研究動向、出版物、公募）を収集し、ニュースレター、ホームページ等で提供した。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行った。
- ・『植物分類学研究マニュアル』（仮題）の出版計画を進めた。
- ・植物地理・分類学会と財産無償譲渡合意書を取り交わし、財産の譲渡を受けた（ニュースレター No. 71 で報告）。

2. 2018 年度決算報告案（16 ページ参照）

3. 2019 年度事業計画案

(1) 集会等の開催

- ・ 学術集会, 講演会, 研修会
年次学術集会 (日本植物分類学会第 18 回大会: 3 月 6 ~ 9 日 八王子市) を開催する。
2019 年度講演会を開催する (12 月 14 日 (土): 大阪学院大学)。
2019 年度野外研修会を開催する (日時場所共に未定)。
- ・ 総会, 評議員会
評議員会を開催する (3 月 6 日)。
年次総会を年次学術集会に合わせて開催する (3 月 8 日)。

(2) 出版物の刊行

- ・ 学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 70 巻 1 ~ 3 号 (計 3 冊) を発行する。
和文誌『植物地理・分類研究 (The Journal of Phytogeography and Taxonomy)』第 67 巻 1 ~ 2 号 (計 2 冊) を発行する。
- ・ ニュースレター
『日本植物分類学会ニュースレター』72 ~ 75 号 (計 4 冊) を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し目的に沿って活動する。

- ・ 絶滅危惧植物専門第一委員会
- ・ 絶滅危惧植物専門第二委員会
- ・ 植物データベース専門委員会
- ・ 学会賞選考委員会
- ・ 論文賞選考委員会
- ・ 大会発表賞選考委員会
- ・ ABS 問題対応委員会
- ・ 国際シンポジウム準備委員会
- ・ 国際命名規約邦訳委員会
- ・ 標本問題対応委員会

(4) 表彰

- ・ 日本植物分類学会賞 (学会賞・奨励賞) の授与を行う。
- ・ 日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
- ・ 日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・ 国内学会連合等への参加・連携を行う: 日本学術会議, 自然史学会連合, 日本分類学会連合など。
- ・ The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division the Botanical Society of China (BSC) 等と連携する。

(6) その他

- ・ 学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
- ・ 当年度発行の『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』と『植物地理・分類研究』の論文 PDF を J-STAGE で公開する。

- ・植物分類学関連情報（学術集会，研究動向，出版物，公募）を収集し，ニュースレター，ホームページ等で提供する。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。

4. 2019 年度予算案（18 ページ参照）

2018 年度決算報告案 一般会計（2018.12.31 現在）

収入の部	単価	数	予算	決算	予算との差異
会費					
通常（一般）	7,000	704	4,928,000	5,018,760	90,760
通常（学生 / 海外）	3,000	105	315,000	280,480	△ 34,520
団体会員	8,000	19	152,000	152,000	0
移行会員（一般）	5,000	50	250,000	335,000	85,000 注 1
特別会計から移管（APG 出版補助）			310,000	170,884	△ 139,116 注 2
特別会計から移管（地理・分類学会からの事務経費）			0	125,271	125,271
小計			5,955,000	6,082,395	127,395

支出の部					
大会補助費			100,000	44,000	56,000
講演会補助費			70,000	26,000	44,000
出版物印刷費					
APG vol.69 (1,2,3)	930,000	3	2,790,000	2,622,394	167,606
植物地理・分類研究 vol.66 (1,2)	700,000	2	1,400,000	1,435,784	△ 35,784
ニュースレター No.68-71	55,000	4	220,000	209,736	10,264
英文校閲費			50,000	50,000	0
出版物送料					
APG 送料	100	3,100	310,000	193,522	116,478 注 3
和文誌送料	100	2,100	210,000	242,961	△ 32,961 注 3
NL 送料	80	4,100	328,000	427,722	△ 99,722 注 3
会議費			50,000	12,528	37,472 注 4
学会賞表彰経費			50,000	40,072	9,928
自然史学会連合負担金			20,000	20,000	0
分類学会連合分担金			10,000	10,000	0
事務局管理費					
消耗品費			50,000	378	49,622
交通費			100,000	113,610	△ 13,610 注 4
アルバイト賃金			0	0	0
封筒等印刷費			50,000	276,596	△ 226,596 注 5
通信費（小包手数料を含む）			50,000	54,889	△ 4,889
手数料・その他			20,000	11,880	8,120
自動振替集金代行基本料			3,240	6,480	△ 3,240 注 6
自動振替口座確認手数料	130	160	20,800	19,569	1,231
レンタルサーバー使用料			26,244	26,244	0
国際シンポジウム積立金			200,000	200,000	0
予備費			100,000	37,800	62,200 注 7
合計			6,228,284	6,082,165	146,119

単年度収支	△ 273,284	230	△ 273,514
前年度からの繰越金	5,151,683	5,151,683	0
次年度への繰越金	4,878,399	5,151,913	△ 273,514

注 1：地理・分類学会からの移行会員 67 名分の会費。

注 2：雑誌出版から見込まれる特別収入（バックナンバー販売、カラーチャージ、著作権使用料）のうち、APG の編集費用を除いたもの。

注 3：NL の郵送単価が値上がりしたため。

注 4：引継ぎ会議を行ったため。

注 5：来年度の封筒を印刷したため。

注 6：振替が 1 度でできなかったため。

注 7：選挙の実施に利用した。

2018年度決算報告案 特別会計（2018.12.31 現在）

収入	予算	決算	予算との差異
前年度繰越金	4,185,826	4,185,826	0
国際シンポジウム積立金	200,000	200,000	0
命名規約和訳販売	0	2,500	2,500
バックナンバー販売	20,000	129,500	109,500
利息	100	135	35
雑収入	50,000	643,413	593,413 注1
APG カラーチャージ	486,000	161,352	△ 324,648 注2
絶滅危惧維管束植物の調査委託費	10,000,000	14,000,000	4,000,000 注3
寄付	0	0	0
合計	14,941,926	19,322,726	4,380,800
支出			
命名規約和訳出版	0	0	0
国際シンポジウム準備金	0	0	0
国際シンポジウム若手派遣	0	0	0
APG 編集作業への謝金	240,000	252,186	△ 12,186
一般会計へ移管（APG 出版補助）	310,000	170,884	139,116 注4
一般会計へ移管（地理・分類学会からの事務経費）	0	125,271	注5
絶滅危惧維管束植物の調査費（2017年分）	2,850,000	2,700,000	150,000 注6
絶滅危惧維管束植物の調査費（2018年分）	6,650,000	6,850,000	△ 200,000 注6
絶滅危惧植物の調査に関連する雑費（2017年分）	487,040	4,320	482,720 注6
絶滅危惧植物の調査に関連する雑費（2018年分）	12,960	12,528	432 注6
次年度への繰越金 （内訳）	9,447,405	9,207,537	239,868
特別会計 - 命名規約		851,421	
特別会計 - 国際シンポ		200,000	
特別会計 - 絶滅危惧		7,770,192	
特別会計 - 顕彰事業		385,924	注7
合計	12,873,627	19,322,726	△ 6,449,099

注1：地理・分類学会からの譲渡金（事務経費：125,271円，顕彰事業：385,924円）を含む。

注2：APGのカラー図表に対する課金（18,000円×8件分：振込手数料の減額有）。

注3：絶滅危惧維管束植物の調査のため，自然環境研究センターから委託される予算。
自然研に支払われていた事務経費が含まれるため増額。

注4：雑誌出版から見込まれる特別収入（バックナンバー販売、カラーチャージ、著作権使用料）のうち、
APGの編集費用を除いたもの。

注5：地理・分類学会から引き継いだ事務経費。

注6：環境省の会計年度が4月～翌年3月であるため。

注7：地理・分類学会から引き継いだ顕彰事業の資金。

2019年度予算案 一般会計

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異	
会費					
通常（一般）	7,000	758	5,306,000	378,000	注1
通常（学生 / 海外）	3,000	98	294,000	△ 21,000	注1
団体会員	8,000	20	160,000	8,000	注1
APG カラーチャージ			144,000	△ 342,000	注2
バックナンバー販売			120,000	100,000	注2
利息			100	0	
雑収入			50,000	0	
合計			6,074,100	123,000	

支出の部					
大会補助費			100,000	0	
講演会補助費			70,000	0	
出版物印刷費				0	
APG vol.70 (1,2,3)	930,000	3	2,790,000	0	
植物地理・分類研究 vol.67 (1,2)	700,000	2	1,400,000	0	
ニュースレター No.72-75	55,000	4	220,000	0	
英文校閲費			50,000	0	
出版物送料				0	
APG 送料	100	3,100	310,000	0	
和文誌送料	100	2,100	210,000	0	
NL 送料	90	4,000	360,000	32,000	注3
会議費			0	△ 50,000	注4
学会賞表彰経費			50,000	0	
自然史学会連合負担金			20,000	0	
分類学会連合負担金			10,000	0	
事務局管理費				0	
消耗品費			50,000	0	
交通費			50,000	△ 50,000	注4
APG 編集補助費			0	0	
封筒等印刷費			0	△ 50,000	注5
通信費（小包手数料を含む）			50,000	0	
手数料・その他			15,000	△ 5,000	注6
自動振替集金代行基本料			3,240	0	
自動振替口座確認手数料	130	160	20,800	0	
レンタルサーバー使用料			27,000	756	注6
国際シンポジウム積立金			200,000	0	注7
予備費			100,000	0	
合計			6,106,040	△ 122,244	

単年度収支	△ 31,940
前年度からの繰越金	5,151,913
次年度への繰越金	5,119,973

注1：会員数の見直しにより更新。

注2：前年度の実績に基づく。

注3：前年の実績に基づき更新。

注4：引継ぎ会議を行う必要がないため。

注5：新たに封筒を印刷する必要がないため。

注6：前年度の実態に基づき更新。

注7：2022年の開催及び若手派遣に備えての積立金。

2019年度予算案 特別会計 顕彰事業予算案

収入	予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金	385,924	385,924	注1
一般会計より移管	0	0	
合計	385,924	385,924	
支出			
次年度への繰越金	385,924	385,924	注2
合計	385,924	385,924	

注1：地理・分類学会の事業を引き継いだもの。

注2：該当する支出がないため。

2019年度予算案 特別会計 命名規約予算案

収入	予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	851,421	351,421
命名規約和訳販売	0	0
合計	851,421	△ 14,090,505
支出		
命名規約和訳出版	360,000	360,000
次年度への繰越金	491,421	△ 8,579
合計	851,421	51,421

注 1: 例年の実績に基づく。

注 2: 新たな和訳の出版作業を進めるため。

2019年度予算案 特別会計 国際シンポジウム予算案

収入	予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	200,000	0
国際シンポジウム積立金	200,000	0
合計	400,000	△ 14,541,926
支出		
国際シンポジウム準備金	0	0
国際シンポジウム若手派遣	0	0
次年度への繰越金	400,000	0
合計	400,000	△ 12,473,627

注 1: 2022 年の開催に備えての積立金。一般会計より移管。

注 2: 日本でのシンポジウムの開催がないため。

注 3: シンポジウムの開催がないため。

2019年度予算案 特別会計 絶滅危惧種調査予算案

収入	予算	前年度予算との差異
前年度繰越金	7,770,192	4,433,152
絶滅危惧維管束植物の調査委託費	0	△ 10,000,000
合計	7,770,192	△ 9,566,848
支出		
絶滅危惧維管束植物の調査費 (2018 年分)	3,500,000	△ 3,350,000
絶滅危惧植物の調査に関連する雑費 (2018 年分)	50,000	37,472
事務委託費	4,220,192	4,220,192
次年度繰り越し	0	0
合計	7,770,192	△ 1,796,656

注 1: 新たな委託金が生じないため。

注 2: 絶滅危惧維管束植物の調査費 (各都道府県調査員が現地調査を行うための費用)。

環境省の会計年度内 (2019 年 3 月) に支出予定。

注 3: 絶滅危惧植物の調査に関連する振り込み手数料。環境省の会計年度内 (2019 年 3 月) に支出予定。

注 4: 絶滅危惧種調査に関わる事務経費 (収集されたデータをとりまとめるための謝金, 交通費, 消耗品費など)。

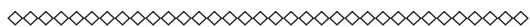
前年度途中に急速財源 (自然環境研究センターに支払われる予定だった事務委託費) が発生したため、

2019 年 1 ~ 3 月に支出予定。

注 5: 2019 年 3 月で完了する予定のため。

編集室より

今号よりニュースレター担当幹事となりました。見やすく、かつ楽しんでいただけるようなニュースレターを目指していきます。よろしくお願いたします。(ニュースレター担当幹事 山本 薫)



入会申込, 住所変更, 退会届, 会費納入, 購読申込
などは下記へご連絡ください。

〒576-0004 大阪府交野市私市 2000

大阪市立大学 理学部附属植物園

日本植物分類学会 厚井 聡 (会計幹事)

Phone: 072-891-2681, Fax: 072-891-7199

E-mail: kaikei@e-jsps.com

会 費：一般会員 7,000 円, 学生会員 3,000 円,

団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号：00120-9-41247

加入者名：日本植物分類学会



*ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。

平成 31 (2019) 年 2 月 20 日印刷

平成 31 (2019) 年 2 月 25 日発行

編集兼 神奈川県横須賀市深田台 95

発行人 横須賀市自然・人文博物館

山本 薫

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館植物研究部

日本植物分類学会